

ヘルマン・ハープ 慰問



・・・ストレス軽減・免疫力高めるヒーリング効果・・・

施設サービス課 渡邊 久子

桜花が満開を迎え 爽やかな春風に心華やぐ季節となりました。コロナ禍で中断していましたが音楽慰問が5年ぶり復活。4月12日（土）に ヘルマンハープ “スウィート ガーモニィ∞”（代表 西村恵子氏）による演奏会が多目的ホールにて開催されました。私自身ヘルマンハープという楽器名を聞いたこともなく、目にしたこともなかったののでどのような音色か楽しみにしていました。

演奏会に先立ち 横山 光昭理事長が「本格的な音楽慰問は 令和6年11月明石文化国際創生財団 明石フィルハーモニー(通称 タコ・フィル)の小編成アンサンブル慰問以降5ヶ月ぶりとなります。本日はヘルマンハープ演奏会です。1987年に ドイツ人の農場経営の ヘルマン・フェー氏が ダウン症の息子のために生み出した弦楽器で、音符が読めなくても感動的な音色で誰もが弾くことのできる楽器で サイズは3種類あり音域が異なります。Sタイプ(1オクターブ半)、Mタイプ(2オクターブ)、Lタイプ(3オクターブ) 日本には 梶原 千沙都氏により紹介され普及しました。私は 笑点でお馴染みの 林 たい平師匠の独演会ではじめて演奏を聞きました。音色は 鍵盤楽器である チェンバロ(ハープシコード) 音に似ていると思いました。『楽譜(音符)が読めなくても、楽譜を弦とハープの表板の間に差し込むと、音符の玉が現れます。音符の玉を上から下へとはじくと、伴奏をつけて曲を演奏することができます』コメントされた事を記憶しております。今回 実際に 目の前に楽器を見て、演奏を聴くのは はじめてで楽しみにしております。しばらくの間 素敵な演奏を聞き、心を癒してください」と挨拶。

